学校と連携して行なう支援の在り方について

― 事例「Aくん」を通して―

四天王寺悲田院児童発達支援センター
放課後等デイサービスWAO
支援員　酒井・早川

放課後等デイサービスWAOについて

・事業所の特色：
ＳＳＴ（ソーシャルスキルトレーニング）の考えに基づき、発達に何らかの課題がある
お子さん一人ひとりの社会性・コミュニケーションスキルの向上を促す事を目的とする
小集団療育(※)を行なう。
※ルール遊び、制作、音楽、クッキング、その他、地域の社会資源を活用した体験学習等

・対象年齢：６歳～１２歳（小学生）

・定　　員：10名／1日

・サービス提供日時：
　月曜～金曜及び施設指定の土曜日
　▼平　　日　…14：30～17：30
　▼土　　曜　…10：00～16：00
　▼長期休み…13：00～17：30

Aくんについて①

基本情報：
・10歳男児
・地域小（支援学級）に通う小学4年生
・診断：自閉スペクトラム症
・手帳：精神保健福祉手帳（3級）
・WISC-IV（知能検査）による指数：IQ65　※3年生時

家族構成：
　母：
　兄：高校生
　本児：(10)小学4年生

その他：
・3：6健診にて言葉の遅れ・落ち着きの無さについて指摘あり
→当センターを紹介され、小学校入学までの間、個別訓練(OT・ST)を受ける
・性格は人懐こく明るいが、少し思い込みが激しい一面も
・学校は、現在不登校に近い
・WAO利用に至る経緯について
→学校から放デイ利用を勧められる（3年2学期）→市役所からWAOの紹介を受けた

Aくんについて②

学校に行きづらくなった経緯：

・入学から1ヶ月が過ぎた頃、本児より「行きたくない」「勉強分からへん」と訴え有
→学校に相談 →支援級に移籍するも改善見られず。徐々に友達関係でもトラブルが

・その後も、本児より「〇〇くんに叩かれた」「意地悪される」と訴え有
→担任に相談 →「実はAくんからお友達に悪戯をする事が多い」「対応は行なっている」と言われる

・2学期から遅刻・欠席しがちに。 2年生では月に3～4回、午後からの登校がやっと

・3年生になると状態が更に悪化
→2学期に入り、支援担任より「放課後等デイがある」「まず小集団で練習してみては」と勧められ、現在に至る

Aくんについて③

WAO利用中に見えた本児の課題点：

①身だしなみ
　伸びた爪　／　体型や季節に適さない服装

②言葉使い
・実年齢と比べての幼さ　／　年上の人に対しての無作法・挑戦的な話し方
・一人称：「Aくん」(自分の名前)　／　母の呼称：「〇〇」(幼児語の名残り)

③社会性
・空気を読まない発言や態度
→活動中「おもんなそー！Aくんはやらんからな！」「ぬけま～す！」→その場から立ち去る
・問題解決能力が希薄　／　過度な否定的受け取り方と自己肯定感の低さ
→「絶対無理！」「何でAくんばっか！」「どうせAくんなんか…」等。時には激しく泣きながら

④生活リズム
・昼夜逆転の不安定な生活習慣
→職員「今日何時に起きた？」 本児「分からん。多分“いちにー”くらい？」 ※12：00

⑤他
　時計の読み方が分からない　／　日付・曜日が分からない　／　読み書き共に拙い(平仮名)
　約束や予定を覚える事が苦手　／　継続性の無さ　／　他者との距離感の近さ　／　多動傾向
　不安が高まりやすい。爆発すると母への攻撃的な態度に。他者には出さない(出せない？)

取り組み目標(個別支援計画)

発達支援:

①社会性・コミュニケーションスキルの向上
・望ましい気持ちの受けとり方と伝え方
・思い通りにいかない事があった時の切り替え方

②継続性の獲得
・決まった時間に、決まった場所へ通う・一定時間、集団場面に参加する
・時間・日付感覚を養い、生活リズムの安定化を図る

家族支援:

当日の活動報告　／　ご家庭での様子の聴き取りと相談援助等

地域支援:

学校等の他機関と連携しながら支援を行う
※母より「学校との間に入ってほしい」とニーズがあった為
→本人にも意思確認。本人「行きたくない！」 →「行きたいけど行かれへんねん…！」

学校との連携①

H30　2/26　WAOから学校へTEL
①自己紹介　②利用に至った経緯(母から聴いた内容)
③WAOが抱いた本児・母の印象　④WAOでの様子と取り組み目標
＋「学校での様子を教えて頂きたい・アドバイスがほしい」

H30　3/27　デイでの様子を見る為に、担任・支援担任が見学に来られる

H30　4～　**出席率が向上。1ヶ月以上連続して登所される**
※本児「先生が見に来てくれた！」「めっちゃ褒めてくれた！」**モチベーションUP！**
母「今まで1週間も続けて頑張れた事が無かったのに…！」

H30　5/21　**学校よりWAOにTEL有**
本児の近況について情報交換の依頼　→互いの近況について情報交換を行う
＋次回予定を決める(「夏休み中にケース会議を行なわせて下さい」)

H30　6/28　WAOから学校へTEL
①ケース会議の日程調整　②近況報告
6/26　本児より「先生！今日学校行ったで！」「プールめっちゃ楽しかった！」と報告有
先生「確かに頑張ってくれてました」「でも、続かないんです…」「正直、悩んでます」
・翌日(6/27)は無断欠席。学校がTELしても繋がらず
・先月は遠足に行ったが、帰りに母が迎えに来ず、担任が本児を家まで送った

先生方が、本児だけでなく母への支援についても苦慮されている事を、少しずつ積極的に話して下さるようになる

学校との連携②

H30　7/12　ケース会議を実施(学校・WAOの二者)
①1学期の評価
②課題の再確認
③今後の方針について　**→ 支援計画と指導計画を連動させて作成**

学校からWAOへ:
・曜日や時間を意識する取り組みを増やしてほしい
→ホワイトボードへの日付記入係を依頼

・学校への見通しを立てられるような声掛けを定期的にしてほしい
→本人の重圧にならない範囲で声掛けを行う(週に2～3回程度)
※「最近行ってる？」「どんな感じだった？」 等

WAOから学校へ:
・スケジュールや約束事は、本人と話し合って決めてはどうか(可能な範囲で)
→合意形成
「どの授業を頑張る？」「何時間目までならいけそう？」 等

・一日の最後に、振り返りの場面を設けてはどうか
→出来た事を褒め、翌日への見通しをもたせる
「今日来てみてどうだった？」「そっか。よく言えたね！」
「〇〇の時、よく頑張ってたね」「明日も〇〇して遊ぼうね！」 等

学校との連携②

学校の先生より(H30　2)：

・登校日数は相変わらず少ないが、以前よりも理由を素直に言ってくれるようになった

→「ごめん…寒くて起きられへんかった」「〇〇くんが苦手やねん」 等

・表情が穏やかになった

・言葉づかいが丁寧になった

・思い通りにいかない時も、落ち着いて気持ちを伝えられるようになってきた

・正直、一年足らずでこんなに変化があるとは思わなかった

・今後も、本人とお母さんのサポート、学校へのアドバイスをしてほしい

・他にも相談したい子が居る**(波及効果)**

H30　3/18　学校にてケース会議を実施(学校・WAO・母・相談支援※の四者)

①今年度の総括

②次年度以降の支援方針

③進路について

※母は当初セルフプランであったが、ケース内容を考慮して事業所から相談支援に直接連絡し繋げた

学校との連携③

学校との連携によって得られた成果：

・一人の子ども(ご家庭)について、より多角的な視点をもち、トータル的に評価する事が出来た

・双方の持ち味を互いに活かしつつ、根幹となる支援方針を統一化する事で、一貫性ある支援を行う事が出来た

・学校との連携力が高まる中で、他にも困り感を抱え、助けを必要とするお子さんにも繋がる事が出来るかも知れない可能性を示す事が出来た(波及効果)

課題：

・数年前と比べて放課後等デイサービスの認知度は高まりつつあるが、現場レベルにおいては「よく知らない」というケースが多い事も事実

→より良く知ってもらう・有効的に活用してもらう為の啓発活動が肝要

・学校(放デイ)との連携については、まだまだ現場スタッフ個人の力量に頼りがち

→ロールモデルがまだまだ少ない。地道に実施・検証(事例検討・研修会等)を重ねていく事で、双方にとって“連携は当たり前”“標準化されたサービス”に近づけていく事が出来れば

ｅｔｃ…

最　後　に

取り組む上で意識している事・気づいた点：

1.こちらの事業内容・役割を伝える
　国の認可事業(児童福祉法に基づく福祉サービス)

2.子どもの様子を、根拠を交えて分かりやすく伝える
　専門性は大前提。その上で、相手に聴いてもらいやすい “簡潔さ” “分かりやすさ”を

3.相手の立場に立って考える
　・1人で数十人を相手どる先生は、本当に大変…
　・互いの関係を深め、持ち味を活かし合えるようになりたい

4.謙虚な姿勢
　「学校での様子について教えて下さい」「アドバイスを下さい」「なるほど！」

5.笑顔・身だしなみ
　第一印象が肝心。相手に不快感を与えないマナー・エチケット

ご清聴ありがとうございました